

# Increased CD226 Expression on CD8+ T Cells Is Associated with Upregulated Cytokine Production and Endothelial Cell Injury in Patients with Systemic Sclerosis

綾野, 雅宏

<https://hdl.handle.net/2324/1560377>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（医学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



(別紙様式2)

氏名	綾野 雅宏			
論文名	Increased CD226 Expression on CD8 <sup>+</sup> T Cells Is Associated with Upregulated Cytokine Production and Endothelial Cell Injury in Patients with Systemic Sclerosis			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	古江 増隆
	副査	九州大学	教授	中西 洋一
	副査	九州大学	教授	山崎 晶

### 論文審査の結果の要旨

全身性強皮症は血管障害、皮膚および諸臓器の線維化を特徴とする自己免疫疾患である。全身性強皮症患者の末梢血や肺組織には CD8 陽性 T 細胞が浸潤していることは知られているが、その機能はいまだ明確ではない。

本研究では、全身性強皮症患者および健常者から採取した末梢血エフェクターメモリー CD8 陽性 T 細胞の DNA マイクロアレイ解析を行い、強皮症で高発現していた CD226 (別名 DNAM-1) について詳細な検討を行った。その結果、以下の点が明らかとなった。

- 1) 強皮症では CD226 高発現 CD8 陽性 T 細胞が有意に増加 (患者 50.7%、健常者 32.9%) し、その割合は皮膚硬化および間質性肺病変の重症度に相関していた。
- 2) CD226 陽性 CD8 陽性 T 細胞では、線維化促進サイトカインであるインターロイキン 13 (IL-13) の産生が亢進していた。
- 3) CD226 陽性 CD8 陽性 T 細胞は、ヒト臍帯静脈内皮細胞 (HUVEC) に対し細胞傷害活性を有していた。この細胞傷害活性は抗 CD226 抗体で阻害された。

以上より、CD226 陽性 CD8 陽性 T 細胞は強皮症の病態形成に関与していると考えられた。CD226 をターゲットとした治療は全身性強皮症に対する有用な治療となり得ると考えられる。

本研究に対し、専門的な観点からさまざまな質問を行ったが、当研究者から満足すべき回答を得た。よって、調査委員合議の結果、最終試験は合格であると決定した。